

■児童・生徒の学力の状況

○全国学力・学習状況調査の理科において、「知識・技能」の活用が十分でない状況である。
 ○基礎・基本の学力が、概ね身に付いているが、一部に極端に学力不振の生徒もいる。
 ○提出物や宿題が期限に間に合わない生徒が目立ち、主体的に学習に取り組む場姿勢が身に付いていない生徒がいる。
 ○個々の意見を発表する場面で、力を発揮できない生徒がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○「本時のねらい」を見える形で提示し、ねらいが達成できたかを生徒自身でふりかえる時間を授業内に設定する必要がある。
 ○学力向上につながる課題（提出物・宿題等）を設定し、期限内に提出する習慣づけを行う必要がある。
 ○各教科の授業においてINPUTしたことを用いて、小集団でのTHINKの時間を設定し、OUTPUTを意識したまとめにつなげる学習時間を確保する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○探究的な活動から主体的で協働的な取組を行い、自ら課題意識をもち解決する力等を育成する。
 ○「板橋区授業スタンダード」を基盤とした授業革新に取り組む、「主体的・対話的で深い学び」につながる質の高い授業を行う。
 ○到来が予想される超スマート社会(Society5.0)を生き抜くために、「読み解く力」を育成し、学力の定着・向上を図る。
 ○一人一台端末を活用した指導法の工夫やデジタル教科書を活用した個別最適な学びや教材・方法・ペース等を洗濯できるようにする。
 ○主体的な学習意欲の向上を目指し、毎日の授業、定期考査前・放課後や長期休業中の補充教室及び学力向上推進週間において、学力向上専門員を効果的に活用し、学習指導を充実させる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○全ての授業において学習語彙の確認を適宜行うことを意識し、読み解く力の6分類を意識しながら発問やふり返り等の指示の出し方を工夫する。 ○INPUT・THINK・OUTPUTの流れを確実に定着させ、生徒に主体的なOUTPUTをさせる時間を授業内に設定する。	○3年間の見通しをもった総合的な学習の時間の目標を設定し、学校生活全般を通して生徒の主体的に探究する意欲を引き出す為に、クロスカリキュラムの視点を取り入れ、全ての教員が指導にあたる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○各学年において都内巡り・里山体験・修学旅行等の行事に向けて、身近な地域や日本の他の地域を地理的・歴史的に学び実際に足を運ぶことを通し理解を深め多角的に学ぶことで、郷土愛を育成していく。 ○学びのエリア桜川において、探究的な学びを通して、学びのエリアにおいて育てたい児童・生徒像を明確にしている。	○「主体的に課題を発見し、解決に導く力」「協働して課題解決に取り組む力」「失敗を恐れずチャレンジする力」の育成に向け、総合的な学習の時間の探究課題に対する生徒の見方・考え方を支える各教科の知識・技能、思考・判断・表現等を横断的・効果的に発揮することができるよう、全教員間で指導の方向性を確認し、各教科の授業においても身に付けるべき力を意識した授業を展開する。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり生徒の考えや作品の共有化を図る。 ○学習ソフト「ミライシード」「オクリンク」や「ムーブノート」を活用し話し合いの内容を共有したり、作品等を発表し合ったりする。 ○学習ソフト「ミライシード」「ドリルパーク」を活用し、復習や宿題、自主学習の教材として活用する。 ○不登校生徒対応として授業配信のためにICTを活用する。